

東海地区 現代俳句協会 会報

第82号(増刊号)
令和6年11月30日
東海地区
現代俳句協会

繋いでゆこう

東海現俳副会長 平賀 節代

「雁渡し」は雁が渡ることはありません、雁が渡る頃に吹く北風の事。秋の寒さを「朝寒」「夜寒」「うそ寒」「そぞろ寒」「身に沁みる」など、いろいろに使い分けたい日本人のなんと繊細なこと。

そんな話を織り交せて句会を進めま
す。「えー知らなかった」、「いい言葉です
ね」、「ひとつ賢くなりました」と俳句始
めて間もない人たちは驚きの声を上げま
す。知らないことを知るの、いくつにな
っても嬉しいこと。そんな時、思い出
すのは、静まり返った句会場に、ペン
を走らす音だけが聞こえ、忘れていた学
ぶことの楽しさを思い出させてくれた俳
句との出会いの日の事です。早いもので、
もう三十五年経ってしまいました。

人生の折り返しで出会った俳句は、そ
の後の私を大きく変えてくれました。自
然も、旅も、人も、みな、それまでとは
違う新しい景色でした。そして、沢山の
愛おしいものに囲まれて生きていくこと
を知りました。逆縁の悲しみの淵から立

ち直れたのも俳句があったからだ、思
いを強くしています。

菜の花の同人になると同時に入会した
現代俳句協会。機関誌「現代俳句」には
ほとんど眼を通さぬ不良会員の私に、東
海地区現代俳句協会の事務局の仕事が
回ってきたのは九年前のことです。伊藤
政美先生が東海地区の会長に就任、事務
局は「菜の花」の人が良いとの理由でし
た。パソコンのできない私がやれるのか
と不安はありましたが、まあ何とかなる
さと、さして悩む事も無く、引き受けて
しまったものです。元来、体を動かして
働くことの好きな私ですが、事務仕事は
最も苦手。大会の賞状を一枚置き忘れて
しまったことや講師へのお礼状が後日靴
から出てきてびびくりしたことなどなど
今思い出しても汗の出る失敗をいくつも
してかしました。そんな私が、事務局長
の仕事が無事務められたのは、みなさん
に支えられての事と感謝でいっぱいです。
事務局九年間、振り返ってみれば面白
かったと言えます。東海地区現代俳句協
会は、俳句自由、楽しく俳句の力を高め
あい、表現の仕方は違っても目指すもの
はみんな同じ、という会です。さまざま

な取り組みをしてきましたが、伝え合い、
励まし合えば、掲げた目標は達成できる。
そうすればしんどかった事は、達成感や
喜びに変わります。その過程で人と人とが
親しくなり、絆が増すのだという事を改
めて教えてもらいました。とりわけコロ
ナ禍での全国大会の取り組みは、忘れる
のできない貴重な体験となりました。

現在、歴史と伝統のある現代俳句協会
も会員減が著しく、昨年は、永井江美子
前会長と、本部の「会員増強委員会」に
参加しました。全国的に見ると、東海の
頑張りや群を抜いて、昨年度は会員
増強の地区目標及び結社目標も共に大き
な成果をあげることができました。地区
協会の取り組みも多彩で、他地区よりも
うんと活発です。仲良く、力を合わせる
ことが出来るのは、東海地区の良き伝統
です。これは若い人達に是非とも繋いで
行きたいものです。

最近知った「恩送り」という深い言葉。
俳句の素晴らしさ、楽しさを新しい方た
ちへ伝え継ぐ事こそが俳句への恩送りで
あると思っています。笑顔が溢れ、「俳句
初めて良かった」と言ってくくださる人が
いる。これが私のエネルギー
の源になっています。
今日もまた新しい出会い
があると心弾ませて、出
かけていきます。



★巻頭文寄稿者略歴
平成二年「菜の花」入会、平成六年現代俳
句協会入会、現代俳句協会評議員、東海地区
現代俳句協会副会長、三重県俳句協会副会長、
「菜の花」副主宰

第七回ジャズ句会 in 名古屋「青年部」

十一月九日に定例の第七回ジャズ句会
が、名古屋納屋橋の「モナ・ペトロ」で
開催された。青年部若手の進行のもと、
二十代から九十代の五十名に加え横浜の
なつはづき氏、東京から赤野四羽氏の参
加も得て、年々充実度が高まってきた。

参加者の俳句をプロジェクトで投影
し、ジャズメンが即興で演奏をします。
おのが肌照らして青き螢かな

岸 快晴
ころろまで指押入れる秋思かな

山南 蛸蚪
人混みの獣苑白息はどこへ 亘 航希

くすり指外さないまま秋の名残り
水越 晴子

ネイルするオータニブルー秋白し
佐藤 武子

寒北斗明日を諦めきれぬ指 なつはづき



春日井さばてん吟行句会 「こ報告

春日井市はサボテンを種から育てる「実生栽培」が盛んです。此れを地域興しの一環とし、母子と大学生にシニアによる、第一回の吟行句会が八月十九日に開催された。此れを東海地区現代俳句協会が支援いたしました。路肩でねこじやしを見つけた子供らの賑やかなこと。

★高得点句の一例

ころころと笑うこどもらねこじやし

森 美月

涼あらた自分探しの街歩き 石川美智子

サボテンの棘の鋭さ生きる力

みうらまゆみ

ねこじやし左手で書くおねえちゃん

後藤そうや

太陽を地上で見つけた花サボテン

采女 大地

サボテンが青い未来に見える私

木下いおり



第十六回鈴木しづ子顕彰会

第六回小中高いのちの俳句大会

第七回全国大学生俳句選手権大会

★九月二十一日開催「第六回小中高いのちの俳句大会」は三、八三六句の応募を頂き、犬山と言う地方発祥ながら全国の注

目を集めるまでに成長してきました。虹のはし弟と手をつなぎゆく

大賞 城東小学校三年 宮地 葉乃

シュートして入れと祈る夏の空

大賞 蒲田中学校一年 橋本 七海

オカリナは臓器のかたち原爆忌

大賞 名古屋高校 服部 亮汰



★寸劇と書道パフォーマンス同時進行にて、グランプリ賞金五万円を目指す大学生俳句選手権大会も同時開催された。

ホスピスの母の薄爪夏の月

G P 同志社女子大学 中原 綾花

性格の違う妹さくらんぼ

準G P 名古屋経済大学 早川 怜奈

廃校の背もたれ低き椅子に蝶

市長賞 岐阜大学 岸 快晴

★神野紗希&メタ婆ちゃんトークショー

俳句に無縁なメタ婆ちゃんと、ネットで掛合いトークが開催されました。鈴木しづ子の「好きなものは玻璃薔薇雨駅指春雷」を例にとり、「好きなものは肉桃桜薩摩芋」俳句挑戦のお手伝いです。

消えたいと俯くひとへ麦そよげ

紗希



青年部の活動案内

9月28日(土) 青着年部オンライン句会は、19時からZOOMを使い開催されました。残暑の中で秋の始まりをどこに感じたのか、其々の着眼点や言葉の用い方について議論が深まりました。普段中々句会に参加できず、一人で句作に励む方にも参加しやすい場を作りたいと考えています。俳句を始めたばかりの方も、ペテランの方もお気軽にご参加ください。

★今回の話題句

またひとり十六夜のらせんかいだん

有本 仁政

誰よりも腹減つてゐる残暑かな

岸 快晴

点りゐる返却ポスト虫すだく

藤瀬ゆつき

夜深くtatooとなるや秋茜

菊山 千月

油絵の蠟燭溶けて鶏頭花

紅紫あやめ

大首の女の覗く夜半の秋

岡田真由美

十代の短距離の脚秋気澄む

東 砂都市

秋の蚊をはらふ仕草の似し姉妹

村山 恭子

蒼年部『つばめ句会』の活動

ほぼ毎月、主に名古屋市公会堂(鶴舞)にて、二十〜八十代が十数名で開催中。

★第八〜十回つばめ句会の高得点句

トンボかけ終えて西日へ並んで礼

後藤麻衣子

肉体になるまで濡れて青葡萄

菊山 千月

どうしても水にはなれぬ水馬

佐々木 歩

醉芙蓉理系女子梓拡大中 金子 ユリ
無花果とあたしの腐れ具合かな

指切げんまんきつねのかみそりすぐそこに 松永みよこ

★毎回十三時〜十六時半/会費五百円

第十一回 十二月十四日 大竹 直子

第十二回 十一月十一日

第十三回 二月十五日/場所未定

★三句(当季雑詠)短冊に書いて持参

★連絡先 有本仁政

htomas@vtd.biglobe.ne.jp

090-4850-0264

総会及び第二十九回新年俳句大会案内

□令和七年二月十六日(日)午後一時〜

□会場はウインクあいち一三〇五号室。

□会員のみ二句無料投句可。投句用葉書を同封しました。締切は二月十日です。

挙つての御参加をお待ちしています。

◆第二十回東海俳句大会の結果は、三月発行の会報八十三号に掲載します。

◆会報81号に左記誤りがありました。

四頁「第21回現代俳句東海大会」は第20

回の間違いでした。又、同大会投句先の中村氏の郵便番号、四四五〇八五三は

四四六〇〇六一が正しい番号でした。

訂正し深くお詫び致します。

東海地区現代俳句協会会報 第八十二号

令和六年十一月三十日発行

発行者 大西 健司

編集 前野 砥水

印刷 名古屋市中村区猪之越町三一―一五

事務局 印刷 ヨサ美印刷

名古屋瑞穂区松月町一十一―二〇九